

インターバンクの声（2015 年 5 月 7 日）

東京のインターバンク市場の大多数が束の間の連休から戻り、今日から通常の業務が再び始まる。もう少し長めの夏休みならいざ知らず、残念ながらこの連休中に全く市場のことを消し去ることが出来るディーラーなどほとんどいない。中には連休最終日の 6 日途中からギアを切り替えて市場の情報整理を始める人もいるが、多くは連休中も日に何度となく開いている海外市場の値動きを追ってしまう。ポジションを抱えたままの人であれば仕方がないが、多くは個人の相場に対するリズム感が市場から目を離すことによって途切れてしまうことを嫌うからだ。こうした傾向はチャートを重視するディーラーに限らないようだ。さて市場に目を戻してみると、連休前に一部で懸念されたような大変動は起こらなかったものの、ドルが対ユーロで 2 月下旬以来の 1.13 ドル台まで売られて来たのは少し驚きだ。5 月 1 日に 1.13 ドル一歩手前まで上昇していたのが少し行き過ぎで、その後連休中に 1.10 ドル台に反落した動きが正常だと感じていたが、どうもユーロ担当ディーラーの相場観に変化が起き始めているようだ。まだユーロを大量にショートにしている人も多いようだが、明日の米雇用統計の発表と合わせて、今後の展開には要注意だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。